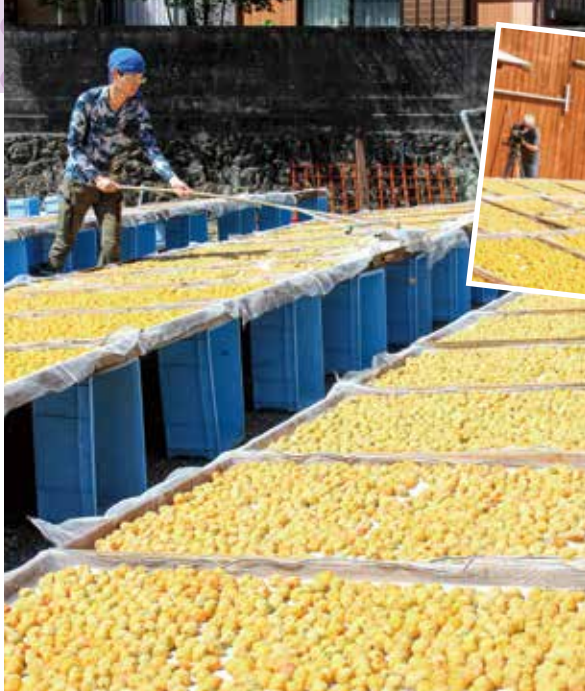




天日干し
各メーカの梅干しは
紹介されても
紹介されても
紹介されても

紀南の風物詩

梅の天日干し

いよいよ終盤戦

7月下旬スタート、10月末までを予定

JAわかやま紀南地域本部では7月下旬より、塩漬けた令和7年産の梅の天日干し作業が始まっています。漬け込みの量にもよりますが、管内全体で10月末頃まで続く見込みです。

紀南地域本部管内では約2100戸が梅を栽培しており、田辺市中三栖で梅を栽培する廣井建太さん(32)は7月20日から天日干しを始めました。廣井さ

んは塩漬けた13トの梅を10月上旬まで天日干しする予定だといひ、梅酢で満ちた漬け込みタンクから梅の実を取り出して「木ザラ」に並べて干し、梅の実が均一に乾燥するよう、トンボ

紀南の風物詩となっている梅の天日干し

のような反転器具(通称「うめころろ」)で実をひっくり返していきます。「今年もしよっぱい、いい梅干しができると思う」と廣井さん。自身も炎天下での畑作業に「梅おにぎり」は欠かせないといひ、「熱中症予防にぜひ食べてほしい」と話しています。

梅干しを無料配布

個包装梅を限定8千個

紀州田辺うめ振興協議会

夏ばて予防に地元特産の梅干しを——。紀州田辺うめ振興協議会(真砂充敏会長)は、田辺市の合併20周年と世界農業遺産10周年の双方を記念したイベント「田辺へ来てら!梅干し配布キャンペーン」を実施しました。



各拠点で配布した個包装梅干し

地元住民や観光客に特産物の「梅」に触れてもらうことで、田辺市が世界農業遺産「みなべ・田辺の梅システム」に認定された梅の一大産地であることや、手軽に塩分を補給できる食材として梅干しをPRするのが目的です。同協議会では個包装した

写真集

女性会活動

各地でさまざまな活動を行っているJAわかやま紀南地域本部女性会の模様を、本誌でご紹介します。

味噌づくり

毎年好評の味噌づくり。田辺ブロックではかんたん味噌づくりを、すさみブロックでは昔ながらの味噌づくりを、それぞれ学びました。



▲すさみブロック(7月8日～10日、すさみ支店・延べ57人)



▲田辺ブロック(7月28日、中央営農経済センター・31人)

テーブルマナー



上富田ブロックはエクシブ白浜で7月2日、テーブルマナー講座を開き、22人が参加しました。

発酵料理講習会



串本ブロックは串本支店で7月28日、厚生産業の宮崎宏之佐さんを講師に招いた発酵料理講習会を開き、18人が参加しました。

リーダー研修会



日置川ブロックは日置川拠点公民館で8月5日、消費者生活センターの小松正代消費生活相談員を講師に招いたリーダー研修会を開き、9人が参加しました。

防災学習会



白浜ブロックとんだ支部は農業研修会館で8月4日、阪神淡路大震災の当時を看護士をしていた経験をもつ幾島浩恵さんを講師に招いた防災学習会を開き、44人が参加しました。

支店協同活動

串本支店

8/2 串本まつり
町民総おどり



JAわかやま紀南地域本部の管内では7月～8月にかけて、各地で祭りなどさまざまな行事が催されました。

地域密着のJAとして、各支店も参加・交流しましたので、写真で一部ご紹介いたします。

新庄支店

8/14～15 新庄職域・
地域盆野球大会



塩分7%の梅干しを限定8千個用意し、JR紀伊田辺駅舎内に併設の市観光センターや市街地散策の拠点施設「田辺市街なかポケット

パーク」、中辺路町の熊野古道館、本宮町の世界遺産熊野本宮館の4カ所で配布しました。
同時にチラシも配布し、

熱中症予防には水分とともに、塩分やクエン酸、ナトリウム類を含んだ梅干しの効果が期待できるとアピールしました。

田辺支店

7/24～25
田辺祭



中央支店

8/23
会津夏まつり



新庄支店

8/2 新庄
夏まつり大会



芳養谷支店

8/23
上芳養夏まつり



芳養谷支店

8/2
中芳養夏まつり



上秋津支店

8/23 夏まつり
盆踊り大会



わたしのおもい



紀南地域本部
副本部長
金融共済担当
佐武 範彦

助け合いとお役立ち

「国際協同組合年」をご存じでしょうか。国連が定めたもので、2012年に続き今年が2回目となります。

世界各国には、さまざまな協同組合があります。協同組合は、共通の願いを実現するために人々が集まり、事業活動を通してそれを実現していく組織です。国連は、持続可能な食料生産・消費、健康・福祉、社会的包摂など、さまざまな分野で「持続可能な開発目標（SDGs）」に貢献している協同組合を評価しています。そこで今回は、「協同組合はよりよい世界を築きます」をテーマに、協同組合の認知の向上と振興のために国際協同組合年を定めました。

もちろん農協（JA）も協同組合のひとつです。

JAでは、営農・経済、

金融・共済などの総合事業を通じて、安心して暮らせる豊かな地域社会を築くことを目指しています。

私の担当する金融共済事業でもその実現のため、お役立ち活動を展開しています。金融事業では、各種金融商品や農業関連資金、住宅ローン等のご提供を通して、農業を始め地域の発展と生活の向上に取り組んでいます。共済事業では、「ひとといえくるまの総合保障」を軸に、生活スタイルに応じた最適な保障・サービスをご提案することで、お役に立てるよう取り組んでいます。これからも地域金融機関として、組合員・利用者の皆さまとのつながりを大切にした活動を進めてまいります。

協同組合には「一人はみんなのために、みんなは一人のために」という、助け合いの心があります。改めて、協同組合の本質・役割を確認し、地域に寄り添うよりよい組織づくりに貢献してまいりますので、引き続きJAわかやまの事業活動へのご理解・ご協力をお願いいたします。

紀南地域版

10月の農作業



ミカン

◆収穫時の注意点

果実を収穫する際、果梗が長く残ったり、切り口が斜めになると収穫から運搬、選別作業時に周りの果実に傷をつける恐れがある。また、収穫時に一度で切ろうとすると、ハサミ傷をつけてしまうこともあるので二度切りを心掛けよう。また収穫カゴからコンテナへ移し替える際には、できるだけ果実に衝撃を与えないように低い位置から移し、選別時も果実を大事に扱い、傷や腐敗に注意する。

◆病害虫防除

○青かび病・緑かび病

これらの病気発生は産地のイメージダウンや他産地との競争力低下に

繋がるため、収穫前に必ず防除を行う。

先に記載している「収穫時の注意点」の他、降雨時の収穫は控えるといった対策が必要だ。散布は薬剤の登録内容を確認し使用する。

○ミカンハダニ

晴天が続く、気温が高く乾燥すると発生が多くなる。加害されると果実は着色が悪く、光沢が無くなり品質が低下するため初期防除に努める。

◆浮き皮軽減対策

浮き皮は、果実が成熟し果肉の生育が停止するなか、果皮が継続して生育するため発生する。秋季の高温、多湿、窒素過多の状態が発生が助長される。対策は園内の排水と日当たりを良くし、乾燥状態に保つことが重要である。資材は、栽培暦を参考にし、使用時期等に注意する。

◆秋肥の施用

秋肥は樹勢回復を図り、冬季の耐寒性と翌年の花芽分化の促進を目的に施用する。収穫が終了した極早生みかんは、速やかに施用するよう心掛ける。

地温が12度以下になると樹体への吸収が鈍くなるため、遅れないように注意する。

◆夏秋梢の整理

翌年の春枝発生を促し、隔年結果を是正するために重要な作業となる。

本年の着果が少なく夏秋梢の発生している樹は、来年着果過多になることが予想されるため、処理を行い翌春の新梢を確保しよう。

処理時期は、秋芽の発生がなくなる10月上旬から行う。垂主枝や側枝の途中から出た強い直立した枝は元まで切り戻し、弱い枝は春芽の節目を残して切り戻す。

(三栖支店営農経済・豊原晋哉)

落葉果樹

◆土壌改良

落葉果樹は10月～12月が土壌改良の時期となる。近年の気象は、今までにない高温や多雨をもたらしている。土作りという基本に立ち返り、土壌改良に取り組んでもらいたい。

梅・スモモは根が浅いため、空気中の要求量が高く、耐湿・耐干性が弱い。そのため湿害や乾燥等の影響を受けやすい。乾燥による樹体への影響は、特に地力の無い園地では顕著に現れ、樹勢の低下や結実・収量にも影響を及ぼす。そのため、完熟堆肥等の有機物を施用し、保肥力・保水性を高めることが大切だ。

また、梅は石灰質を好み、石灰の要求量が窒素と同程度に多いので土壌分析で過剰と診断されない限り、基準量に従って施用する。(表1参照)

◆苗木の植付け準備

落葉果樹の苗木の定植は、休眠期の11月頃～年内中に行う。植穴の事前準備が定植後の生長に大きく影響するため、植穴や資材の補給は、1ヶ月前までに準備しよう。植穴の大きさは直径70～100^{センチ}、深さ50～70^{センチ}を目安とし、植穴に入れる資材は、1穴当たり完熟堆肥10～20^{キログラム}、苦土石灰2～3^{キログラム}、BMよりりん1～2^{キログラム}を土とよく混和しておく。

◆授粉樹の接木

安定生産には、授粉樹の役割が重要である。園内に授粉樹が少ない場合や、着果が不安定な樹は授粉枝を接木

表1 梅・スモモの土作り10～12月(10a当たり)

◎基準設計		
・バーク堆肥		2～4t
・苦土石灰		140kg
・BM ヨーリン		60kg
・FTE		6kg
◎目的別資材		
・有機物	プロ有機 又は ハイフミン特A	100袋 200kg
・腐食	アヅミン	200kg
・リン酸	リンスター	60kg
・石灰	セルカ 又は苦土セルカ2号	160kg 160kg

することも、有効な手段である。接木の例として、長果枝（20〜30センチの結果枝）を今年発生した徒長枝の根元に腹接ぎをする方法がある。腹接ぎをした長果枝は、強風等で欠けやすいため、台木の徒長枝を翌年の果実収穫までは切らずに残すようにする。

◆病害虫防除

○コスカシバ

成虫の発生時期は4月〜10月頃で、幼虫で越冬し翌春に発生する。幼虫は、樹皮下の形成層を食害するため、枝・樹体が衰弱し、枯死することもある。この時期の対策は、虫糞を目印に幼虫の捕殺を基本とし、あわせて薬剤の補正散布が有効である。

○梅のかいよう病

かいよう病細菌は、新梢内で越冬し、翌年の発生要因となる。越冬枝の病斑を減少させるためには、この時期の薬剤防除が効果的だ。

かいよう病による果実被害の多い園地では、防風林や防風ネット等の設置も有効である。

○スモモの黒斑病

黒斑病は、開花・結実期の強風雨によって発生しやすく、発生すると商品価値が著しく低下する。防除は落弁期以降がメインとなるが、10月に薬剤散布することで黒斑病予防に効果が期待出来る。

また、薬剤防除とあわせて防風ネットの設置など、耕種的防除を行うことも重要である。

野菜

（富田川営農経済センター・田ノ瀬佳男）

◆レタス

○施肥

冬採り栽培では、10ア当たりケイ¹ 400〜600²、苦土石灰100〜120³を施用する。その後、元肥としてレタスベレット300⁴を施用する。

○かん水

定植後、活着までは土壌を乾燥させないよう、株元に十分かん水する。また、結球期の乾燥は、品質・収量を低下させるため、適宜かん水に努める。

○病害虫防除

定植時には、ベリマークSC（400倍・育苗期後半〜定植当日・1回）、またはヨーバルフロアブル（200倍・育苗期後半〜定植当日・1回）を育苗トレイにかん注する。

定植後20日を目安に、灰色かび病・菌核病にはアフエツトフロアブル（200倍・前日まで・3回以内）、オオタバコガ・ハスモンヨトウ・ヨトウムシにはグレーシア乳剤（200〜300倍・3日前まで・2回以内）、またはプロフレアSC（200〜400倍・前日まで・3回以内）を散布する。

結球期初期（ピンポン球サイズ）は、斑点細菌病・腐敗病にカスミンボルドー（100倍・7日前まで・4回以内）、アブラムシ類にはモスピラン顆粒水

溶剤（200〜400倍・前日まで・3回以内）を散布する。

◆ウスイエンドウ

○施肥

マメ科作物との連作を避け、日当たりの良い園地を選ぶ。土壌改良として10ア当たり苦土石灰100⁵、B M⁶よりりん40⁷を施用する。その後、元肥として有機化成特A805、または固形30号プラス60⁸を播種日の1週間前までに施用し、よく土になじませる。

○播種

播種前には十分かん水する。種子は1条植えで、播種間隔は40センチ程度とする。欠株を防ぐため、1穴に3〜4粒播き、覆土は1〜2センチとし、本葉が2枚になる前に1〜2本に間引きを行う。

○害虫防除

コガネムシ類幼虫には、ダイアジノン粒剤5を10ア当たり4〜6⁹を播種時に土壌混和する。アブラムシ・ハモグリバエ・ウラナミシジミにはスタークル顆粒水溶剤（200倍・前日まで・2回以内）、ハモグリバエ・ハスモンヨトウにはグレーシア乳剤（200〜300倍・前日まで・2回以内）を散布する。

（営農課・濱本和美）

花き

◆病害虫防除

アブラムシ類、ヨトウムシ類等の発生が活発化する時期であるため、発生初期の防除に努める。幼苗は株元が弱く、多雨や強風後には立枯病、株腐病、菌核病に注意し、防除に努める。

また、施設栽培では薬剤散布ばかりに頼らず、害虫の侵入を防ぐため、防虫ネットを張るなどの耕種的防除にも努める。（営農課・栗栖昌史）

花木

◆病害虫防除

○輪紋葉枯病

輪紋葉枯病の発生が多くなる時期は、9〜10月である。ビシヤコ等は、降雨が続くと葉に1〜2センチ程度の赤褐色の病斑を生じ、病葉は落葉するため、発病前からの予防的散布に努める。病斑には菌が潜んでいるため、発病した葉を圃場外へ持ち出すことも重要である。

防除薬剤は、トップジンM水和剤（1000倍・発病初期・5回以内）、またはベンレート水和剤（200倍・発病初期）等で防除する。

（営農課・栗栖昌史）

※みかん、中晩柑、梅、スモモ、水稻の防除薬剤や施肥肥料は、旧JA紀南令和7年栽培暦を確認ください。



市場出荷量は1913トン

令和7年産の青梅販売反省会

令和7年産の青梅販売について、紀南地域本部管内の市場出荷量は1913トン(前年比134%、計画比98%)、市場販売価格は1キロ当たり898円となり、主力の「南高」出荷量は計画比95%の1515トン、小梅は208トン(計画比104%)、「古城」は146トン(計画比112%)でした。

7月24日には、令和7年産の青梅販売反省会と次年度対策会議を中央営農経済センターで開き、会議には市場12社と、JA役職員、生販・梅部会役員など計57人が出席。

過去最高単価での販売に市場からは「昨年に比べると、シーズン中も売りをかけながらの販売となった」「上位等級品の販売は正直苦勞した」との意見が聞かれましたが、スタンドパウチ袋を使った梅シロップ作りの提案については好評でした。



市場と産地が意見交換

市場からは「産地の生産苦勞は理解するが、改植や樹勢回復を図るなど生産量の安定に向けた管理に努め、数量の確保をお願いしたい」との要望がありました。

「稲成なす」栽培を継承

田辺市稲成町の榎本久美子さん

田辺市稲成町で古くから栽培されてきた巾着なす(別名「稲成なす」)は皮が薄くしつかりとした肉質が特長で、



「稲成なす」の栽培に励む榎本さん

地元では金山寺味噌の具材として広く利用されてきました。

種子が流通していないため、生産者の榎本久美子さんは「優良な種作りが重要」と話します。発芽するまでの温度管理次第では苗づくりが失敗するとい、出荷時期に遅れが生じると、他の栽培品目と作業が被るので、正直お手上げです」と苦笑します。

また栽培には水を多く必要とすることから、田んぼに水を張り、株元が浸からないよう高畝栽培を行っています。榎本さんは「苦勞も多いですが、元気が続くうちは頑張つて守り続けたいです」と話しています。

種苗メーカーが栽培講習会

直販所「あぜみち」利用会開く

紀南地域本部の直販所「あぜみち」

紀南地域本部に感謝状 令和7年度献血運動の推進で



和歌山県庁で行われた贈呈式に出席した笠松副本部長(後列左から2人目)

献血運動の推進に積極的に協力し、他の模範となる実績を示した団体・個人をたたえる令和7年度の厚生労働大臣表彰状・感謝状、知事感謝状の贈呈式が7月28日に和歌山県庁で行われ、紀南地域本部から営農経済本部が「知事感謝状」を贈呈されました。

贈呈式には笠松秀之副本部長が出席し、宮崎泉県知事から感謝状と記念品を受け取りました。表彰式には紀南地域本部を含め、3個人と20団体に表彰状や感謝状が贈られました。

利用会は7月24日、種苗メーカーによる栽培講習会をとんだ支店で開き、36人が参加しました。講師は、株式会社サカタのタネ・関西支店の東太郎さん。同社の

オンラインショップ



今月のイチオシ

冷凍南高梅 500g
(梅酒・梅ジュース用)
¥1,280(+送料)

ご注文はこちら



お手元に届いたらすぐに、梅ジュース・梅酒づくりが楽しめます。

絵袋種子「実咲」シリーズの新商品をはじめ、ハクサイの「タイニーシュシュ」、ホウレンソウの「寒締め吾郎丸」、コカブの「二刀」などについて紹介しました。

お悔やみ

新庄支店職員の中野雄介さんが、去る8月21日、41歳でお亡くなりになりました。

心よりご冥福をお祈りいたしますとともに、皆様にお知らせいたします。

依願退職

氏名 西川 靖史 部署 本店 営農経済部 紀南営農経済センター(再雇用嘱託職員)
7月31日付

ふれあい広場

すくすく Memory

白浜町才野

まなご めばえ
眞砂 芽生さん
ひかる
光くん(1歳)



ENJOY

セカンド
ライフ

田辺市上秋津

すぎわか さゆき
杉若 紗雪さん



地元・田辺で念願の洋菓子店をオープン 季節の食材を使ったケーキ等を販売

今年の4月に「秋津野ガルテン」で、洋菓子店「maru（マル）」をオープンしました。いつか地元でお菓子を作るのが夢だったので、念願が叶い幸せです。店名の「maru」は丸＝つながりを意味しており、皆さまとのつながりを大切にしようとして名付けました。

「秋津野ガルテン」は高校生の時にバイトでお世話になったところで、帰郷を機に場所を提供いただけることになりました。季節の食材を使ったケーキや焼き菓子などを販売していますので、ぜひご来店ください。

シュークリームや、ギフトにも利用いただけるクッキー缶は特に好評です。Instagram「@maru_wakayama」のフォローもお願いします。

地域本部の

JA職員です



とんだ支店 複合渉外

さわこし ゆうき
澤越 勇輝さん



Jリーグや海外サッカーの試合を視聴するのが今の楽しみ。いつか海外旅行やスキューバダイビングにも挑戦してみたいです。

朝来支店 金融窓口

たにの はるか
谷野 晴香さん

サウナが好きで、おすすめは田辺市のヨコタリゾート。地元の木材紀州材で作られた温かみのある空間が完全貸切で楽しい。水風呂もキンキンで最高です。



消防車のカッコよさに一目ぼれ パトカーや救急車など、車に夢中

活発で、よく笑うという光くん。おうちのすべり台や、車のおもちゃでいつも遊んでいるんだって。親戚のお庭でプール遊びしたのも楽しかったなあ。

車の中でも特に気に入るのが、消防車！消防署で見た消防車は本当にかっこよかったなあ。パトカーや救急車もかっこいいから、好きなんだ。

カボチャはちょっと苦手だけど、バナナは大好き。おうちではよく、テレビで「シナぷしゅ」をみていて、楽しいお話や音楽がいっぱいあって飽きないよ。

ご家族から一言

元気に育ってくれば、それで十分！
好きな道を自分らしく歩んでね。

生産者
紹介

今月の
きなん産地人

田辺市中三栖

うめだ じゅんや
梅田 純也さん

ミカンが高糖度な品種へ改植中



レモンの試験栽培に挑戦しながら、梅2畝とミカン30畝を栽培しています。就農6年目となりますが、ミカンは特に手をかけた分だけ結果に表れやすいので、やりがいを強く感じます。

現在はミカンの面積拡大も視野に、より高糖度な品種への改植をすすめているところで、しばらくはYN-26、ゆら早生、田口早生の3種を主力品種に考えています。

青年部三栖支部では支部長も務めており、梅の盗難防止パトロールや支部間交流をはじめ、昨年から生産販売委員会と連携し、有志で耕作放棄地の伐採も行っています。三栖地区限定の活動にはなりますが、鳥獣害や害虫の被害防止対策に取り組んでいます。